

東海第2原発 再稼働反対

あなたの力で世論と運動を広げよう



流山市議会議員

小田桐たかし



右から、小田桐たかし流山市議、武藤・平野・渡部柏市議、加藤県議、おだ野田市議（11月2日柏市役所日本共産党柏市議団控室にて）

運転開始から40年と老朽化し、東日本大震災でも被災した首都圏唯一の原発：これが東海第2原発です。今、再稼働への準備が強引に、そして秘密裏に進められています：

「協定締結と原発再稼働は別問題」―野田市長

10月31日、東海第2原発の重大事故を念頭に水戸市と流山市を含め東葛6市が協定を結びました。市民にとって寝耳に水の話です。

しかも、柏市では市議会に提供されている情報も流山市では全くありません。経過も含め市民不在です。

日本共産党流山市議団は、H23年12月に国への意見書を議会に提案し、可決されてもなお、引き続き注視し、

動きがあれば議会を取り上げてきました。今年第3回定例議会に提出された陳情2件についても、質疑・討論もせず反対する議員が多い中、採択を求め奮闘しました。

野田市鈴木市長は、避難者を受け入れる協定締結はしても、再稼働は別問題と発言し、くぎを刺したように、再稼働のための既成事実化は許されません。

県議含め広域議員団 共同して抗議

日本共産党流山市議団は、10月31日、協定締結に際し、緊急要請書（裏面）を提出。県議を含め流山、柏、野田（我孫子市議は議会運営委員会で欠席）の日本共産党の広域市議団が共同して記者会見を行い、無責任な協定締結に抗議しました。

茨城県那珂市長は「避難は到底無理だ。危険を承知で動かそうというのは理解できない」と発言し、茨城県内44市町村中29議会でも再稼働反対の国への意見書が可決しています。国民的世論と運動を一緒に広げ、あなたの力で安全・安心な社会や自然環境を子どもたちに引き継ぎましょう。